

目的 退蔵衣服（着なくなったがそのまま保管している衣服）発生の原因は、衣服の劣化、サイズや活動上の不適合、自然環境への不適合だけでなく、個人の好みの変化、飽きなど複雑な内容を含んでいる。衣服は個人と社会相互に関連した意味を持ち、その不適合も退蔵衣服の原因となっている。現在着なくなった衣服が着用当初はどのような意味を持ち、また退蔵時はその意味がどう変化したかを検討することで、現在の衣服着装の意味を考察した。

方法 女子学生（18～22歳）128名、有職女子（22～27歳）66名を対象に、昭和58年12月、各自の所持衣服の中から3点の退蔵衣服について質問紙法にて調査を実施した。各種文献の着る意味を整理して選定した服装から伝達される意味内容18項目の評価の平均値を家庭着からフォーマルまで7状況に分けて、着用当初と退蔵時についてプロフィールに比較した。さらに、服装にどの意味が重要か評価した内容を因子分析し、退蔵時の評価と比較した。

結果 1)有効衣服は244点、過去5年以内に購入したものが83.6%であり、その使用頻度は、頻繁に16.7%、ときどき46.6%、ほとんど着用しないが34.8%であった。2)着用当初の意味内容の評価は、ほとんど着用しないものは頻繁に着用したものに比べて全般的に満足感が低かった。3)退蔵時の意味内容の評価は不満点としてあまりあがらず、着用当初の評価と相対的にみて満足感が低かった。状況別の服装に重視する意味内容の因子分析結果と比較すると、このように意味を表示しない衣服は着用されないと推測された。